

心の輪を広げる体験作文 中学生部門 ◆優秀賞

「中学校の3年間を通して」

相模原市立弥栄中学校 三年 田淵 たがうち 美佑花 みゆか

私は産まれたときから耳が聞こえにくいです。聴覚障害があります。幼稚部1年の時から小学部を卒業するまで特別支援学校の聴覚部門に通い、中学校は地域の中学校に入学しました。中学校に入る前は不安があり、新しい友達ができる楽しみもありました。

入学してから、同じ学年のみんなに自分の障害のことについてをスライドショーで発表しました。例えば「補聴器があっても周りがざわわしている時はほとんど聞き取れないことや、ゆっくりはつきり話してくれると大体理解することができる」ということを伝えました。そうしたことで何ヶ月か経つにつれて会話を楽しむことができるようになり、みんなも私がりやすいようにはつきり話してくれているということが感じられて嬉しかったです。

中学2年生になってクラスが変わりました。その時も中学1年生の時と同じように自分のことについてスライドショーで発表させてもらう機会をもらいました。同じ女子バスケットボール部のキャプテンが手話に興味を持ってくれていて私の誕生日に部のみんなが手話でお誕生日おめでとう歌って祝ってくれて、みんなからの思いが

込められた色紙をもらいました。とても嬉しかったです。

いま中学3年生になり、中学校生活の最後の1年間です。入学した頃に比べて手話に興味を持ってくれる子が増えたのでとても嬉しいです。高校受験を控えています。進学先は弥栄中のように地域の子たちが行くような普通の高校を受験しようと考えています。たくさんの友達と、先生方がいることで新しい発見も多く、選択肢が広がるように感じます。聞こえない・聞こえにくいのため、音声による情報が入ってこないのが様々な壁や社会的バリアに直面することも多々あると思いますが、高校も楽しい生活が送れるようにしたいです。